

【テーマ】「在宅勤務、機能していますか？ Part.2 ～サービス・手続き方法などの変革～」

【主催】事務システム分科会

活動報告

日 時：2020年12月11日（金） 15:00 -16:30
場 所：オンライン座談会
出席者：23名

1. 研究内容

事務システム分科会では、「在宅勤務、機能していますか？ Part.2～サービス・手続き方法などの変革～」をテーマとして今年度第4回目となるオンライン座談会を開催しました。

遠隔授業や在宅勤務が導入され、ステークホルダー（学生、保護者、卒業生など）へのサービスの提供や、各種手続きの方法が変化している点、政府のデジタル化推進や文科省の押印見直しに関する事務連絡などを受け、今後、変革が求められる業務分野について、現状の問題点や各大学の状況や施策など情報交換を実施しました。

2. スケジュール

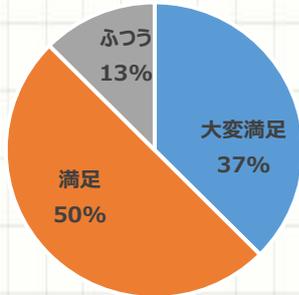
15:00	分科会開始 ・事務連絡
15:05～15:45	テーマ「（在宅勤務、機能していますか？ Part.2～サービス・手続き方法などの変革～」 ・サービスの「提供方法」や「質」・申請、申込などの、各種「手続きの方法」の変化について
15:45～16:00	・富士通からの報告（事例紹介） 『スマートキャンパス実現に向けたAIチャットボットの活用』
16:00～16:30	・押印の省略、ハンコ文化の見直しの推進について ・意見交換
16:30	分科会終了

【オンライン分科会の様子】



3. アンケート結果【回答数8】

■ 本日の「プログラム内容」について満足度をお選びください

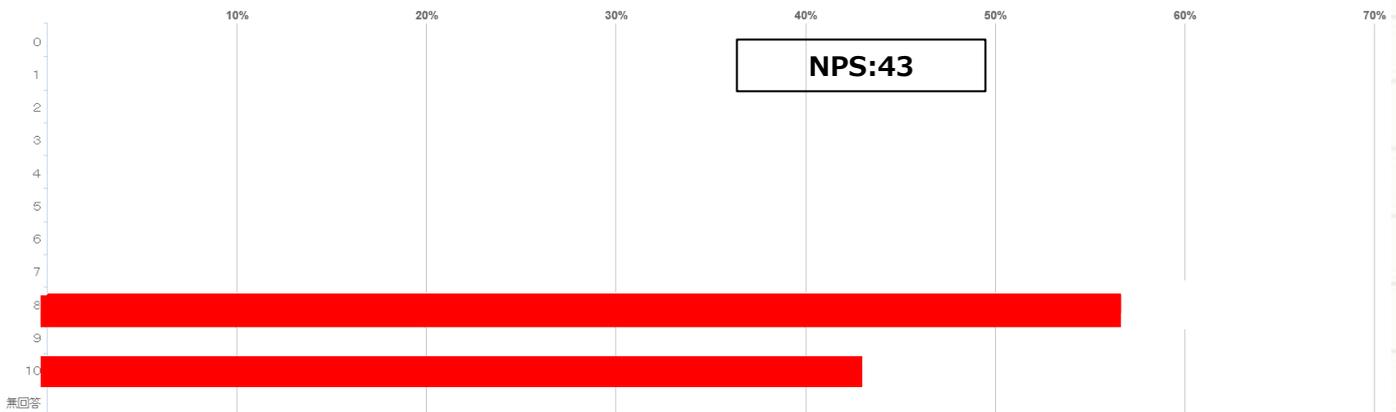


- ✓ 参考になる情報を多く頂戴できた
- ✓ 他大学さんの状況を知ることができたため。
- ✓ 他大学の状況を知る数少ない機会であるため。
- ✓ 在宅勤務制度に関して他大学の動向を知ることができた
- ✓ こちら側の回線環境のトラブルのため、きちんとプログラムを受けることができなかったため。
- ✓ 他大学の有益な情報を得ることができた
- ✓ 前回の在宅勤務の現状からより具体的な課題についての内容であったため
- ✓ リアルタイムで検討を進めているのでとても興味深い

■ 今回の分科会を、どのくらい他の人に推奨したいと思いますか？ 0(お薦めしない)～10(お薦めしたい) またその理由をお聞かせください

【NPS (Net Promotor Score)とは】

測定方法は推奨者(10,9点)、中立者(8,7点)、批判者(6点以下)に分け、回答者全体に占める推奨者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いた値がNPSのスコアとなります。結果としては数字が大きいほど良いイベントと評価されます。



- ✓ 抱えている問題の解決策を見出せるよい機会であるため
- ✓ 他大学さんの状況を知ることができる機会であるため
- ✓ 他大学の人の話を聞くのは新鮮だと思います。
- ✓ 進行役の方（平石様）がまんべんなく各大学の方に意見を伺っておられるので、多くの意見を聞くことができるため
- ✓ 10点にしたいところではありますが、改善点もあると思いますので8点としました。（運営委員ですので、まだまだ改善の余地ありと思っています。）
- ✓ 大学内で検討を進めている中で共有したい。

■ 本日の分科会を実施して、開催テーマに対して得られた研究成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。

- ✓ グループウェア（ワークフロー機能）の有効活用再検討
- ✓ ハンコに関して、なかなか廃止するのは難しいと改めて思った
- ✓ 在宅勤務については、各大学で実施状況は様々なものの、今後の働き方の面からも導入を進めて欲しいと感じる。
- ✓ ワークフローシステムの件は特に参考になった
- ✓ きちんとプログラムを受けることができなかったため、特に成果はありませんでした。
- ✓ 押印廃止の行く末やワークフロー導入後の留意点など具体的に描くことができたので今後の参考としたい。

■ 次回以降取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- ✓ 電子化一体どこまで進められるか。
- ✓ ワークフローシステムやペーパーレス化への取り組みについて
- ✓ チャットボットに興味を持っており、今回ご紹介を頂いたのですが、お聞きすることができなかったため、また機会がございましたら、よろしくお願ひ致します。

4. 参加校 [9校13名] ・参加企業[2社10名] ・参加総数[23名]

亜細亜大学[1]
大阪経済大学[1]
芝浦工業大学[1]
清泉女子大学[1]
千葉工業大学[1]

東海大学[5]
福岡大学[1]
立正大学[1]
流通経済大学[1]

株式会社システムデザイン[1]
富士通株式会社[9]

5. 所感

今回の座談会を終え、ワークフローシステムやAIチャットボットなどが一般的に利用されたら、ステークホルダーに対するサービスを向上させつつ、リモートワークや業務効率化も実現できるイメージは掴めたと感じます。ご参加いただいた皆さまの積極的なご発言に感謝申し上げます。
(事務システム分科会 幹事・運営委員一同)